

そよ風かせに

■ 楽曲データ

歌詞：守安弥末野 作詞

楽曲：弘田龍太郎 作曲

発表：大谷楽苑 1948年

初演：大阪毎日会館 1948年

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

管理番号：M1822

■ 創作の経緯

大谷楽苑より「讃仰歌」第6番として発表。歌詞は公募による。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

《そよ風に》は、第二次世界大戦後まもない1948（昭和23）年に、大谷楽苑より発表されました。

大谷楽苑は、真宗大谷派24世大谷光暢・智子夫妻の願いにより1947（昭和22）年、大谷家内に創設された団体です。応募と委嘱による仏教音楽の創作・普及を目的とし、戦後の混乱と不安のなか、浄土真宗門徒のみならず、人びとの生活に平安と潤いをもたらしました。同年「讃仰歌」第1回発表会を大阪毎日会館で開催しています。以来、定期演奏会の開催や全国各地への演奏旅行を行い、またラジオ・テレビにも出演し、多くの「讃仰歌」を発表してきました。1975（昭和50）年、種々の事情で活動を停止しましたが、戦後の仏教音楽の歴史を語るうえで、忘れることのできない活動でした。

◆ 作詞者について

作詞の守安弥末野については、詳細がわかりません。おそらく、大谷楽苑の呼びかけに応募された方であろうと思われます。

◆ 作曲家について

作曲の弘田龍太郎は、童謡《叱られて》《靴が鳴る》《雀の学校》《浜千鳥》

などでよく知られている作曲家です。

1892（明治25）年、高知県安芸市に生まれ、1910（明治43）年、東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）ピアノ科に入学、作曲家でピアニストの本居長世に師事しました。1914（大正3）年に卒業後は、母校で教鞭を執り、1920年（大正9）年には助教授となります。1928（昭和3）年、ドイツに留学し、ベルリンで作曲家シュミットに師事。翌年帰国して東京音楽学校教授となりますが、2ヵ月で教授を辞し、作曲活動に専念しました。晩年は、娘夫妻の設立した幼稚園の園長となり幼児教育に尽力しました。作品には日本的旋律を用いた歌曲と童謡が多数あります。

仏教音楽にも、《仏陀三部作》のような大曲から、《花まつり》や《成道会の歌》などの仏教童謡に至るまで、多くの作品があります。戦前は、「仏教音楽協会」の評議員としての活躍にもめざましいものがありました。

◆曲について

《そよ風に》は、8分の6拍子で作曲されており、詞の情緒を生かした明るいきわやかな作品になっています。伸びやかに歌うことを心がけましょう。

◆詞について

1番から3番まで、3行目に「ああ あの中に阿弥陀さま」という言葉ができます（4番は「この中に」）。これは、花のなかにも、灯明のなかにも、暁の雲のなかにも阿弥陀さまが満ち満ちてくださっていることを、表現しています。

親鸞聖人が和語の聖教に「この如来、微塵世界にみちみちたまへり」（『唯信鈔文意』註釈版聖典709ページ）と示されたお心を、分かりやすい言葉で表現したとっていいでしょう。

◆歌い方について

① 6/8拍子です。付点4分音符を1拍、1小節を2拍と考えて、ブランコが揺れるような感じで歌ってみてください。伸びやかに、おおらかな気持ちを忘れずに。

② 6拍目から歌い始めます。前奏のテンポに乗って歌えるように、十分に練習しましょう。そよ風のように、流れを大切に歌いましょう。

③ 6小節目6拍目「ド」から新しいフレーズが始まりますので、この音を正確に取りましょう。発音もはっきりと。

④ 7小節目からの上昇音階を滑らかに歌えるよう練習しましょう。

⑤ 9・18小節目の「ファ」はかなり高い音ですので、ピッチに注意して。

⑥ 8・12・16小節目の息継ぎは、休符がありませんのですばやく行いましょう。

⑦ 12小節目、息継ぎ後の低い「ド」の音を正確に取りましょう。直前の音からは1オクターブ下です。

⑧ 15小節目の「ああ」は、感動の言葉です。ため息にならないように注意しま

しょう。

⑨目の当たりに阿弥陀さまを拝むような気持ちで歌いましょう。

⑩21小節目の「ござるよな」は、落ち着いてほのぼのとした気持ちで歌いましょう。

◆用途について

さわやかな季節にぴったりの讃歌です。いろいろな場面で歌ってください。

原曲の混声四部合唱版のほかに、二部合唱用の編曲があります。楽譜は『讃歌集 二部合唱』第8巻に掲載されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 58（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第185号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.